

令和5年度 第2回仙台市学校給食運営審議会分科会会議録

- 1 日時 令和5年10月30日(月)
18時00分開会
19時15分閉会
- 2 場所 仙台市役所本庁舎8階 第2委員会室
- 3 出席委員 丹野久美子委員、成田栄子委員、中村晴美委員、阿部英男委員、安藤香委員
- 4 事務局職員 渋谷総務企画部長、加藤健康教育課長、大堀給食管理係長、丸山給食事業係長、近藤給食事業係指導主事、佐々木給食事業係主査、豊島給食事業係主査
- 5 説明員 加藤健康教育課長、丸山給食事業係長
- 6 定足数の確認 議事に先立ち、事務局より、本日の出席者が5名であり「令和5年度仙台市学校給食運営審議会分科会の運営について」に定める定足数を満たしているため、本会議は成立している旨報告がなされた。
- 7 議事「学校給食に対する各立場の視点を踏まえた給食施設のあり方の検討について(前半)」
- | | |
|-----|--|
| 会長 | 議事「学校給食に対する各立場の視点を踏まえた給食施設のあり方の検討について」事務局から説明願う。 |
| 事務局 | (資料1頁から3頁まで説明) |
| 会長 | ここまでの事務局の説明について、委員の皆様からいただいた意見が多く反映されているかと思うが、この認識が異なっていると、この部分を詳しく説明してほしい、といったことは何かあるか。
(一同 質問、意見なし) |
- 8 議事「学校給食に対する各立場の視点を踏まえた給食施設のあり方の検討について(後半)」
- | | |
|------|--|
| 事務局 | (資料4頁から6頁まで説明) |
| 会長 | 資料では、全部で4つの実施方式について、各立場からの視点や役割の違いをまとめてもらったが、4つ目の実施方式である民間調理場方式は難しいのではないかと内容であったと思う。本市の親子方式は、秋保小学校と湯元小学校、生田小学校と生田中学校の2組4校のみとの認識でよいか。 |
| 事務局 | ご認識のとおりである。 |
| 会長 | 親子方式は、人数規模で決定するものであるのか。 |
| 事務局 | 親子方式を検討する際には、①親校となる学校と子校となる学校の人数規模や、②できるだけ近い距離の方が搬送リスクを回避できるため、親校から子校への距離、③小学校、中学校の校種の違い、といったことを踏まえて決定する必要があるものと考えている。 |
| 会長 | 資料の「まとめ」からすると、今後の方向性としては、①単独調理校を維持する、②単独調理校が学校給食センター対象校に移行する、③親子方式の学校を増やすというパターンなのかと思った。事務局からの説明を受け、委員の皆様から、質問等はあるか。 |
| 阿部委員 | そもそも、現在の「単独調理校79校」と「学校給食センター対象校103校」はどのような経過で決まったのか。昔はおそらく単独調理校のみだったと思うが、どのような流れによって、現在は2つに分かれたのか。 |
| 事務局 | この場で詳細まで回答することは難しいが、概略としては、仙台市の給食の歴史として、まず小学校から完全給食が実現し、その後に中学校が完全給食に至ったという経緯がある。学校給食センターの建設に合わせ、本市では中学校にも学校給食 |

を拡大しようという動きがあり、そのタイミングで学校給食センターの対象校に中学校が加わることで、中学校においても完全給食が実施できるようになったとの記録が一部残っている。

阿部委員
事務局

今までの経緯として、どのような理由で各実施方式に決まったかを確認したい。現在の単独調理校と学校給食センター対象校のバランスになった詳細な経緯までは分からない部分があるが、現在の本市の考え方として、学校新設の際は、単独調理校とすることを基本としている。

安藤委員

実施方式には一長一短があるので、どちらがよいとはっきり言えないが、本分科会に参加するまでは「もっと量があるとよい」とか「おいしいとよい」とか、保護者の立場で好きなように発言していた。子どもからは「今日、〇〇（献立）の人氣がなかった」といったように、色々と話を聞いたりもする。

その他、給食費無償化についても保護者間でよく話題に上がるが、最後のまとめまで聞いた上で、保護者として何が一番ありがたく、何を給食に求めるかという点、やはり安定して給食を提供してもらえることだと思う。おそらく、急に何かの事情で「学校給食センターや給食室が使えなくなったので、お弁当になります」ということが、保護者が一番困り、慌てると思うので、安定的な給食提供について、保護者の理解に繋がるような指標を伝えることができる術があるとよい。

会長

学校給食は成長著しい児童生徒の大事な一食を担うもので、安定して給食を提供することは重要であると思う。学校長・先生の視点から、ご意見を伺いたい。

成田委員

前回の分科会では、本校は大規模改修中で、改修中は学校給食センターの給食を食べており、夏休み明けからは単独調理校に戻るという話をしたが、単独調理校に戻ってから、とても大変なことがあった。

具体的には、夏休み明けの準備を進めている中で、給食パート職員は本来4人必要である中、1人しか確保できず、とても給食が作れるような状況ではなかった。人員の確保は大変だったようで、他校でも辞める方が複数おり、人員配置が間に合わなかった事情等があったそうだが、とても慌てた。しばらく学校給食センターに戻してもらった方がよいとも考えたが、保護者には単独調理校方式での給食を再開すると通知していたため、担当部署と話し、ローテーション勤務で、他校の給食パート職員や代替パート職員が入れ替わり立ち代わり来ていただけるようなシフトを組んでもらい、とてもよい方々に来ていただいたが、それが長く続いた。給食室に入って何か手伝えたらと思い、私も検体を取った。急遽、欠勤者が出ると、栄養士の方に給食を作る順番を考えていただいた上で、何とか頑張ってもらっていたが、何が一番不安だったかという点、事故である。安全に作れるのか、安全なものが出来上がるのか、ずっと不安であった。さらに、毎日違う方々が来られるため、その都度、駐車場の案内や準備方法の説明等を行う必要があった。夏休みが明け、1か月以上経った10月2日ようやく全員が揃った。

給食はとても大事なことであるが、学校は教育活動をするところであり、学期末で行事も重なっていたため、正直、かなりの負担であった。人員の確保ができないと、単独調理校はこんなにも大変なことになると実感した。最初に学校給食センターに頼ろうかと思ったぐらいであったため、学校給食センターとの併用といったバランスを取っていかなければ、どの学校も単独調理校となると、いずれ破綻する時が来るのではないかと感じた。確かに、単独調理校の給食はおいしく、匂いも漂ってくるため、食欲もかき立てられながら、楽しく給食を食べることができる。しかし、それ以前のことで、先ほどの話のとおり、安定した給食提供が安全に持続的にできるということが、何よりも最初に担保されないといけないのではと考えている。

会長

前回、学校長の労務管理が非常に大変だという意見があったが、人材確保は、栄養士だけでなく調理員も難しいのが現状ということが分かった。中村委員は、いかがか。

中村委員

当校も単独調理校だが、同じようなことは多々ある。ただ、メリットもたくさんある。今回資料でまとめてもらったものは、非常に見やすく、読めば読むほど、この話し合いをすればするほど、どれがよいのだろうかと思う。また、前回の分科会

では、給食施設の老朽化が進んでおり、これから長いスパンで対応を考えなければならないということが、非常に伝わってきた。事務局に確認したいこととして、現在、早急に対応すべきところが出てきているのかどうか、また、現段階ではどのような視点で優先順位を考えているか伺いたい。

事務局 まず、単独調理校は、学校の改築や大規模改修のタイミングに合わせて老朽化対応を図っている。近年も、単年度に複数校の改築・改修が実施されており、教育委員会では、老朽化対応が適切なタイミングで図られるように計画している。

2点目として、現時点で、教育委員会として具体的にどの方式を優先にするという構想は持ち合わせていないが、委員の皆様が多様な意見等を踏まえて検討する必要があると考える。1つの実施方式に偏ってしまうと、委員の皆様から発言いただいたような課題が生じるため、給食を安定的に提供することを大前提とし、それぞれの実施方式の長所を活かしながら、検討していく必要があると考えている。

中村委員 個人的には、単独調理校も学校給食センターもよいと感じており、単独調理校と学校給食センターのよいところを採用しているのが親子方式だと思っている。現段階で親子方式を検討している学校はあるのか。

事務局 現時点で固まっているものはない。冒頭に少し触れたが、親子方式を検討する上では、親校と子校の距離、調理能力、人員体制等を総合的に考慮して、可能性を探っていく必要があるものとする。

会長 将来的に子どもが減少していくのは事実だが、大人も減少しているので、働き手が確保できない等、色々な面で課題が生じている状況であるが、今話のあった「親子方式がよいのではないか」とか「学校給食センターはあるべきだ」といった様々な意見をこの場で出した方がよいと思う。

また、今ない形で、長所と短所を上手く埋められるような方法を提案いただくのも1つかと思う。例えば、私の立場からすると、学校給食センターになってしまうと、十分に食育が行き渡らなくなるのではないかという不安があるが、学校に備え付けのICTの活用により、学校給食センターと繋がることができれば、移動を伴わなくとも、授業等での食育指導が可能になるのではないかと思う。

ただし、その設備には費用が掛かるので、簡単なことではないが、私たちは市・行政に直接に携わる立場ではなく、分からない立場から言えることはあると思うので、ここで自由な意見交換ができればと考えている。

阿部委員 他のPTA会長との話の中で話題に上がることとして、単独調理校と学校給食センターの運営についてそれぞれメリット・デメリットがあると思うが、子どもたちの立場に立った場合、各実施方式の違いについては、教育の平等性という観点から、よいことなのだろうか。

私は説明を聞いて両方とも問題がないと認識しているが、子どもへのメリット・デメリットは共通にしてほしい。その点についてはどうお考えであるか。

事務局 子どもたちに対する立場としては、単独調理校であっても、学校給食センターであっても、必要な栄養量を満たした給食の提供がされているものと認識している。その上で、先ほどご指摘があった食育の観点では、学校給食センターに少し課題が残るため、提案いただいた内容を含め、今後検討する必要があると認識している。

阿部委員 是非お願いしたい。生まれたところで小学校、中学校が決まってしまう。住民票を置いた場所でよし悪しが出ると、全体的な納得感が得られないと思うので、一工夫が必要かと考える。

会長 今回の意見を踏まえ、教育現場から見て、単独調理校、学校給食センターでの食育の質や内容が異なるということや、又は先生の負担が違ってくるといった経験などあれば、教えていただきたい。

成田委員 単独調理校では、栄養教諭又は栄養士が配置されているので、給食時に声掛けしながら教室を回っており、顔が見える指導で子どもたちの安心感があるのではないかと思う。また、栄養教諭は調理実習の授業や食育指導もできる。ただ、給食センターであった時も「給食センターだより」で子どもたちと接点を持てるような工夫がされていたかと思う。平等性はその通りだと思うので「給食センターだより」の

ような子どもたちとの接点を持てるような取組みについて、私たちも活かしていかなければならないかと思う。

中村委員 学校給食センター対象校にいた時が結構前であるので記憶が曖昧だが、学校給食センターからも毎日お便りをいただいていた。単独調理校の場合には、日々の小さな行事も踏まえているので、ありがたいと日頃から思っている。例えば、明日から中総体が始まるという時には、中総体応援メニューとして「カツ（勝つ）カレー」を出してもらったり、高校受験が始まるという時には、受験を意識した、消化のよいものや、体を温めるものを出してもらっていた。

小さい細かいことだが、リアルタイムで対応していただけるのが、食育としてもよいと思っている。学校給食センター対象校だと、どうしても規模が大きいので、何かいただいた気はするのだが、あまり印象に残っていない面はある。

会長 安藤委員のお子様は単独調理校の中学生ということだが、お子様たちや保護者の声等を伺いたい。

安藤委員 単独調理校ならではだと思いが、8月の文化発表会で給食委員会が、毎年、給食に関する「〇×クイズ」を行い、そこで優勝した子は1日メニューを作ることができる特権がもらえる。11月に、そのメニューが「優勝者メニュー」として給食で提供される。子どもたちは給食が大好きで、夢のメニューを叫ぶために皆ものすごく一生懸命になり、とても盛り上がる。今回は文化発表会がリモート開催で、保護者は別室でテレビを見る形式だったが、廊下から多くの歓喜の声が聞こえてきた。それだけ給食が身近であり、単独調理校のよいところだと思う。

阿部委員 私が初めに質問した内容と2番目に質問した内容は関連したものであるが、行政は行政の意図があり、単独調理校と学校給食センター対象校に分けてきたのだと思うので、議論を進めるにしても、今まではどのような方針でこのような運営としてきたのかが分からないといけないのではと思います、質問をしたところである。

子どもたちへの行政サービスは、運営側のメリットと切り離して考えないといけない。何かの意図があり、単独調理校が現在の79校に至っているのであれば、それはそれでよいと思うが、なぜこのような状況になったのかという、その意図を確認することが大事だと思っている。

安藤委員 南中山中学校は、当初、学校給食センター対象校だったはずである。私は卒業生であるが、当時は学校給食センター給食であった。現在は単独調理校になっているので、どこかのタイミングで実施方式が変更になっていると思う。

会長 学校給食センターから単独調理校に切り替わるということは、施設改修時に給食室を学校に作るということが、以前はあったということか。

事務局 詳細は把握していないが、学校給食センターにも様々な経緯、変遷がある。現在は5か所の学校給食センターとなっているが、以前は6か所であった。学校給食センターを廃止するタイミングで、その対象校をどの学校給食センターが受け持つのかといったことや、実施方式をどうするのかといったような議論が行われたはずなので、その中で実施方式が変わった可能性はある。

会長 学校給食センターの中では、南吉成学校給食センターが一番新しいかと思うが、この施設もどこかの学校給食センターが廃止となり、新設されたのか。そうした場合、学校給食センター対象校が、その都度変わってくるということか。

事務局 そのとおりである。

会長 児童生徒数の10年後の見通しは立たないと思うが、先ほどの阿部委員の発言のとおり、ある程度の予測の基に、例えば、「このような場合には、単独調理校にはできない、学校給食センターがなくなる」等、一定の基準、ルールのようなものがあり、仙台市が計画的に実施していくものかと思うが、その辺りも教えてほしい。

事務局 あまり事例はないが、新設校については、給食室を設けて単独調理校とする考えが1つある。今後、児童生徒数が減少する中で、どういった場合に単独調理校を維持していくのか、それとも他の実施方式を検討していくのかをまさにこの分科会で議論、検討し、給食施設のあり方を考えていかなければならないと思っている。

会長 加えて、中村委員から意見のあった「親子方式がよいのではないか」という話について、今後、そのような方式が増えていくであろうと私も想像するが、そのこと

についても具体的な取り決めや、一定のルールが必要だと思う。親子方式の場合、食数の上限、下限はあるのか。

事務局 親子方式を実施する際には、親校の調理室の面積、人員配置数、釜の数等の設備といった条件で調理可能な食数がおおよそ決まるので、親校と子校の食数に対応できる、そのような食数が上限になり得ると考えている。

会長 今回、とても分かりやすい資料をもらっているが、他に意見や質問、付け加えたいことはないか。

事務局 今回、阿部委員から、これまでの経緯に関するご質問をいただいた。単独調理校と学校給食センター対象校の現在の振り分けになったこれまでの経緯について、詳細まで分からない部分はあるが、分かる範囲で調べた上で、例えば、こういった時には親子方式も考えられるのではないかな等の基準を今後検討して、次回以降提示したい。

会長 前回の分科会で、実施方法の変更の要望が出ている学校があったと記憶しているが、その後、進捗、変化はあったか。

事務局 福室小学校のことかと思うが、現在、学校給食センター対象校であるところ、単独調理校に切り換えてほしいと、地域から要望があった。現在対応中であるが、学校給食センター対象校のまま、単独調理校への移行は難しい見通しである。

会長 今年度において、この分科会はもう1回程度の開催を予定している。今後の進捗状況に応じ、学校給食運営審議会に分科会の内容を報告しなければならないが、まだ報告できる段階ではないため、もう1回程度の会議を踏まえてということになるかと思う。この場で、様々な立場から意見を出していただいたり、質問を行えば、事務局でまとめてくれるかと思うので、その他に何か質問、意見はないか。

成田委員 親子方式は色々できることがあるかと思うので、見通しや資料があると意見がまとまりやすいと思う。

会長 その他、何か質問等はあるか。

(一同 質問、意見なし)

会長 本日、資料の説明をいただき、委員から意見、質問を多くいただいた。これまでの経緯、これからの方向性、指標をある程度、事務局から提示いただき、次回の分科会で検討できればと思う。

会長 以上により、議事を終了したい。

事務局 それでは、今後の予定について、説明申し上げます。

次回の分科会については、本日頂戴したご意見を踏まえながら内容を詰めさせていただき、1月頃を目途に、多くの委員の皆様にご参加いただけるよう開催時期を調整してまいります。今後とも、学校給食の充実のため、ご指導をお願いしたい。

以上により、令和5年度第2回学校給食運営審議会分科会を閉会する。

以上

令和5年 / 2月 2 / 日

署名委員 仙台市学校給食運営審議会分科会会長

丹野久美子

仙台市学校給食運営審議会分科会委員

成田栄子

